

## エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1 H23年度 第1回エゾシカ・陸上生態系WGの概要（平成23年6月12日開催）

#### (1) 主な議題

- ・H22 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画実施結果について
- ・H23 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画（案）について
- ・第2期知床半島エゾシカ保護管理計画（素案）について
- ・植生指標開発の進め方と検討の枠組みについて
- ・エゾシカ保護管理計画モニタリング項目と長期モニタリング計画について

#### (2) 知床半島全域における冬期エゾシカ確認数と分布の変動(2003-2011年比較・図1)

- ・4年間にわたる個体数調整が行われた知床岬を含む半島先端部ユニットと、この8年間で新たに一部可猟区化と囲いわなによる有効活用事業が始まった斜里町側基部隣接地域の1ユニットでは減少傾向を示した。
- ・先端部以外の羅臼町側ユニットでは、この8年間では大きな変化なし。
- ・特に管理捕獲等を行っていない斜里町側の半島中部のユニット（オショコマナイ～幌別～岩尾別～ポンプタ）で増加傾向。

#### (3) 知床岬地区における捕獲結果と今後の進め方

- ・H22 シカ年度における捕獲頭数は57頭。平成19年からの4年間で469頭を捕獲。今年度はこれまでと比較して捕獲頭数は減少したが、その理由として春期捕獲を行わなかったことと、同地区での越冬数が減少したことが考えられる。
- ・H23 シカ年度には夏季に仕切り柵を設置し、銃猟の効率化を図る。当面5頭/km<sup>2</sup>を当面の目標とする。柵により、岬先端部への新たなシカの侵入は抑制される可能性があり、植生の回復が早まると期待される。シカの侵入があった場合にも効果的な捕獲装置として機能する。

#### (4) ルサー相泊地区における捕獲結果と今後の進め方

- ・ルサ川右岸でのシャープシューティング（以降「SS」）及びルサ川左岸での囲いわなによる密度操作実験の試行を実施。平成22年12月～23年3月に実施したSSでは25頭を捕獲。囲いわなによる捕獲は平成23年1月～5月に実施し、113頭を捕獲。
- ・地区内に生息するメス成獣は400頭前後と推定。3年間で半減させるには年間150頭以上、5年間では124頭以上のメス成獣を捕獲する必要があると想定。
- ・H23 シカ年度の密度操作実験計画案では、公道からの流し猟式SS、囲いわな、巻狩り、麻酔銃により、推定捕獲数213～334頭（オスや子ジカを含む）を見込んだ案を提案。
- ・これに対して、3年以内にメス成獣数の半減を目標として計画を見直し、十分な推定捕獲頭数を計上できなければ密度操作実験を行うべきでないとの指摘があった。
- ・今後、推定捕獲頭数の積み上げのため、公道からの流し猟式SSの実現、希少猛禽類の繁殖期の巻狩り等について調整が必要。

(5) 幌別ー岩尾別地区における捕獲の進め方

- ・同地区におけるエゾシカ生息数は 5000 頭レベルと推定され、エゾシカを攪乱することなく効率的に捕獲することが重要。
- ・H23 シカ年度は密度操作実験実施に向けた手法検討を行う期間と位置づけ、囲いわな、くくりわな、麻酔銃及び流し猟式 SS を試行し、効率性やコスト、課題等を検討する。

(6) 第 2 期知床半島エゾシカ保護管理計画（素案）の見直しについて

- ・第 1 期知床半島エゾシカ保護管理計画は、平成 19 年 4 月～平成 24 年 3 月まで。そのため今年度中に保護管理計画の見直しを行う。今後の調整スケジュールは別紙のとおり。
- ・平成 23 年度第 1 回 WG では、密度操作実施にあたっての課題や、地域主体の取組等について追記すべきとの意見が出された。

2 今後の主な予定

- ・平成 23 年 10 月 第 2 回エゾシカ・陸上生態系 WG  
ルサー相泊地区及び幌別ー岩尾別の捕獲計画案が主要検討課題
- ・植生指標開発に関しては別途検討部会を設置する（秋以降開催予定）。

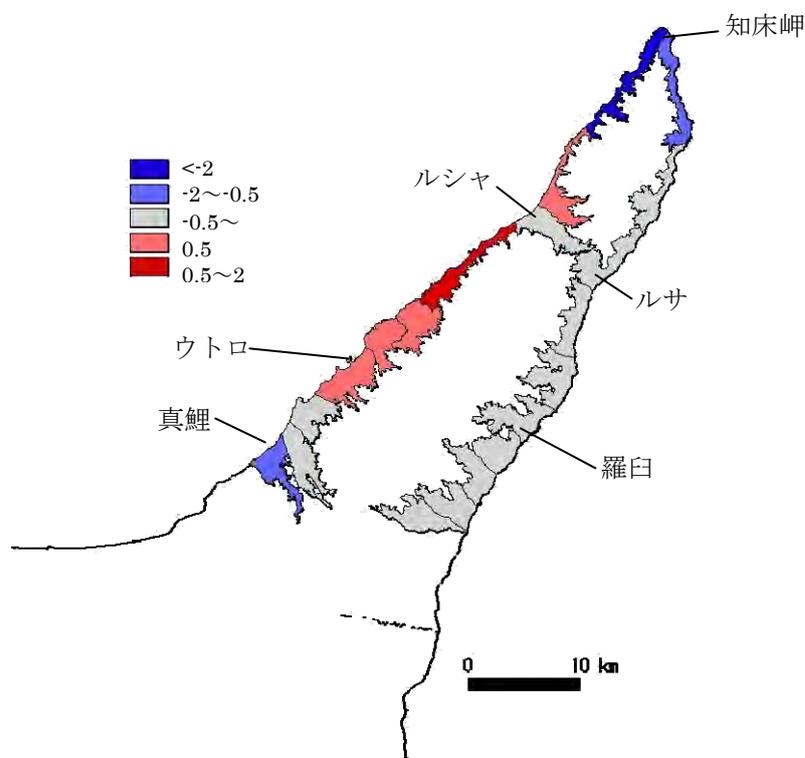


図 1. 知床半島エゾシカヘリカウント調査の経年比較（2003 年 3 月と 2011 年 2 月）。

比較は  $((2011 \text{ 年値}) - (2003 \text{ 年値})) / (t \text{ 検定標準偏差})$  で表し、青が減少傾向、赤が増加傾向、灰色はほぼ変化なし。